

未来づくり懇談会（上伊佐野）会議録

日 時：平成28年9月28日（水）

19：00～20：20

場 所：上伊佐野自治公民館

出席者：市長、総合政策課長、

商工林業観光課長、総合政策課長補佐

1 開 会 19：00 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

持続可能な泉地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口推計、小さな拠点構想等について説明。

Q 1 全国的な問題として人口が減り社会を維持していくのが難しくなり、行政サービスを提供するのが困難になる。問題意識はどこ自治体も持っていると思うが矢板市として独自に具体的に何をしていくか考えていることはあるか。

A 1 今年1月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という計画を策定した。そのなかで、「安定した雇用を創出する」「来てもらう住んでもらう人の流れを作る」「各世代を支援する」「活力と魅力あるまちをつくる」という4つの基本目標を掲げ、これに沿う形で様々な取り組みをすることになっている。新たな方向性で地方創生の取り組みをスタートさせたところ。

Q 2 小さな拠点の定義にあてはまるが分からない、病院も沢山あるわけではないので、矢板市全体を小さな拠点として中心市街地と郊外をバスで結ぶ発想のほうが良いと思う。泉地区で完結しようというのは無理がある。矢板市を一つのコンパクトな小さな拠点として、現在ある資源を有効に活用するための小さな拠点構想という発想のほうがいいのでは。

A 2 中心市街地の活性化とリンクし、街の機能を再び中心市街地に集めていく発想が広がっている。今まではどちらかといえば郊外型の大型施設ができて、都市の機能が外へいつていたが、これから高齢化が進み車に乗れないお年寄りが増えていく中で歩いて動ける範囲に公共施設や病院やお店をコンパクトにまとめていく取り組みを市の中心市街地ではやらせていただきたいと思います。中心市街地と上伊佐野行政区を結び付ける公共交通機関の充実強化をしていければと思う。

5 意見交換

Q 1 地域の活性化について、小さな拠点を進めるにあたり、一般市民の意見を取り入れていただきたいと思います。交通手段について、高齢者はタクシーを使わないと矢板市街地に行けない、子どもはとても自分の足で中心部に行き図書館を利用したり買い物することが出来ない状況なので、市営バスをもう少し使い勝手が良くなるよう考えていただきたいと思います。

A 1 矢板市としても各行政区単位で意見交換会をし、こういった機会をどんどん作り可能な限り意見交換していく姿勢で今後もさせていただくので、市役所へ何なりとご意見をいただければと思う。

交通手段については市営バスやスクールバスの役割を取り払うことが出来るか等、公共交通機関の使い勝手が良くなるよう検討させていただく。

平成 28 年 5 月	地域公共交通会議開催。
平成 28 年 6 月	ダイヤ改正実施。
平成 29 年 4 月	巡回ルート等の検討。
平成 29 年 10 月	スクールバス活用について調査研究。

Q 2 鳥獣被害対策について、イノシシ、シカ、クマが田畑を荒らしている。もはや鳥獣保護などと悠長なことを言われていられる時代ではなくなってきたと感じる。早急に対策を講じないと人家や人に被害を与えてくると懸念している。

A 2 組織ぐるみで捕獲にあたっていかないと間に合わない状況があるので、猟友会の皆さんに相談しながら捕獲実施隊を年度内に立ち上げ来年度から実施部隊が稼働できるよう進めている。

平成 28 年 10 月	捕獲報償制度開始
	捕獲報奨金 1 頭につき 6,000 円
平成 29 年 4 月～	捕獲報奨金 1 頭につき 12,000 円
平成 29 年 4 月	矢板市鳥獣被害対策実施隊を設置
平成 30 年 4 月	矢板市狩猟免許取得補助金
	上限 10,000 円 1 人 1 回限り
	矢板市猟友会加入補助金
	上限 30,000 円 初回のみ

Q 3 捕獲した後に食料にならないイノシシやシカを埋めるしかないという大きな問題がある。埋めるにしても手掘りでは対応できないので、市として何かできることがあれば考えていただきたいと思います。

A 3 野生獣を獲った後は細かくばらして埋めている現状である。八溝ではイノシシの肉を加工し、八溝ししまる井として売り出し馬頭の道の駅では名物になっている。捕獲後加工して売りたいが、市内の野生獣、イノシシは放射線の値が高く、売ったりするのは難しい状況である。

○4 上伊佐野から山縣農場を通り八方ヶ原へつながる道を交互通行できるように拡幅して欲しい。観光バスはすれ違い出来ないので出来るようにして欲しい

6 閉 会 20:20